

二〇一五年度 女子学院中学校入学試験問題 (国語)

受験番号

氏名

一 次の文章を読んで問いに答えなさい。

二〇〇五年暮れから〇六年にかけて、日本海側は a な大雪に見舞われました。雪かきが追いつかない状態で、お年寄りなど百五十人近い尊い命が失われました。これだけ科学や技術が進歩しながら、大雪や台風、洪水、地震、それに伴って起きる津波、大火などによる ① 犠牲者を守り切れないのはなぜでしょうか。

ユーラシア大陸と太平洋の深い海溝との間にはさまれている日本列島は、地質学的にも、気候的にも、定期的に自然災害に見舞われやすい位置にあります。台風は年に何度も襲い、土砂崩れや堤防決壊などを引き起こします。〇六年の梅雨は例年にないほどの犠牲者を出しました。また、地震については、多くの科学者が相当の研究費を使い、たいへんな努力をしているにもかかわらず、今のところほとんど正確な予知はできていません。

モンスーン(季節風)気候にはさからってもしようがない。②自然は、いわば神のような存在で抗えないと、昔から日本人は感じていたのだと思います。確かに、災害の発生自体を止めることは、現在の人間の力では不可能でしょう。しかし、台風や大雪などは予測が可能な自然現象です。にもかかわらず、対策が遅れたり不十分であったりして、大きな被害を毎年のように出している現状は、③と言わざるを得ません。

人間が本当の知恵をもっているとするならば、予知する努力を惜しまないと同時に、日頃から防災への備えをし、わずかな前兆が現れたときにはすぐに対策をとるべきです。国土交通省では、過去の記録や統計などから、この程度の降水量であればこの堤防にはこういう対応が必要であるなど、個々に b な対応策を決めています。また、④相当の国家予算を使って河川改修、ダム建設、道路整備、斜面保全なども行っています。それにもかかわらず、時折大きな被害を出し、死者が出ればマスメディアで大きく報じられます。しかし、⑤「結局は、根本的な対応ができないまま、また、大きな災害が起きるまで現状が維持されていくのです。

それでは、根本的な災害対策とは何でしょうか。それは、その土地に合った⑥多層群落の森をつくることなのです。

洪水に対しては、コンクリートの堤防を築く。地震に対しては、耐震計算をして、震度七、八でも耐え得るような建物や橋梁の建設を進める。火事に対しては、防火壁、防火扉をつくる。消防車の数を増やす――。このように、個々の災害には、⑦ハード面での対策が手取り早く、しかも現在の技術をもってすれば、かなりの確率で効果が期待できます。しかし、自然災害は c です。例えば、地震が発生すれば、津波も起こり、家屋の倒壊、火災も発生します。台風が来れば、家屋の倒壊の他、洪水や土石流、停電、断水などが起こる場合もあります。こうした c なケースに対して、もし、部分的、一面的なハード面の対策だけで対応しようとするれば、経済的負担が際限なく大きくなってしまいます。しかも鉄筋やコンクリートなど人工の材料でつくったものは、完成した直後が最高、最強で、時間と共に必ず劣化していきます。おそらく百年も経てばつくり直さなければならぬでしょう。雨の多い日本では、鉄筋はさびやすく、コンクリート護岸などがされる地盤も、海岸や川沿いの沖積低地では完璧ではありません。

災害防止のためには、ハード面の個別対応策を行っていくのと併行して、ソフト面として、土地本来の森の再生を進めていくべきです。

日本人は何千年も前の昔から、新しい集落や町をつくる際には、屋敷林、集落林、鎮守の森に代表されるような森をつくり、残してきました。海岸や河川には、砂防林、洪水対応林としての森づくりを行ってきました。また岬や水源地など、⑧人間の干渉に敏感なところにも森をつくり、弱い自然を守ってきたのです。丘陵地、山のふもとなど地盤の安定した土地にある森は、災害時の避難場所にもなりました。二宮尊徳も江戸時代に神奈川県酒匂川流域に木を植えています。

現在、日本人の九二％以上は照葉樹林域に暮らしています。そうした地域には、土地本来の樹種である高木のシイノキ、タブノキ、カシ類を中心に、防災機能を果たす森を積極的につくっていくべきです。高木を支える亜高木として、ヤブツバキ、モチノキ、シロダモ、ヤマモモ、カクレミノなどを、混植・A密植します。

なぜ、照葉樹林が災害対策に有効なのでしょう。それは、大量の雨が降っても、多層群落の森ではそれぞれの層の葉で雨は弱められ、幹を伝って土中に浸透していくからです。地中には照葉樹の特徴である深根性・直根性の根が張り巡らされています。高木の根は地中深く入り込み、根の間にも、亜高木、低木の根群が重層して絡み合っているため、浸透した水は、根と根の間の土壌層によって保水され、浄化され、ゆっくりと流れます。こうして、鉄砲水にならず、洪水を防ぎます。年間を通じて林内で保水、浄化された水がほぼ一定の量で流れ出るので、乾燥期には水源林としての機能も果たします。

⑨堤防に木は植えるべきではない、という考えが日本には定着しています。B護岸工事といえは、堤防をコンクリートで固める方法がほとんどです。なぜそうなってしまったのか。おそらく昔は、スギ、ヒノキ、マツなどの針葉樹が堤防に植えられていたせいだと思います。針葉樹は、根が浅く倒れやすいだけでなく、地上部が枯れると根まで腐って、そこに水が入ってしまします。その結果、堤防を破壊してしまった例があったのかもしれない。

それに比べ、照葉樹は地上部が損傷を受けたり伐られたりしても、新しく萌芽再生します。照葉樹を護岸林とすれば、鉄筋やコンクリート以上に、時間と共に、より確実に斜面や堤防を保全する役割を果たします。植物の根は一見弱そうに見えますが、シイノキ、タブノキ、カシ類の並木道を舗装すると、根がコンクリートを持ち上げることがあるほど、底力があります。「⑩柔よく剛を制す」といわれますが、強度においてはむしろ、コンクリートや鉄筋よりも木の根の方が強いでしょう。

本物の森づくりでは、深根性・直根性の樹種を混植・密植するため、たとえ一本の木が枯れても、根まで枯れて地盤がゆるむということはありません。樹種によつて枝の張り方が違うように、地下部の根のシステムも、同じ深根性であっても、それぞれ張り方、伸び方が異なるからです。水質浄化、そして、保水などのほかに、土を押さえ、岩を抱いて、斜面保全に役立ちます。

『木を植えよ!』宮脇昭

問一 — a c にあてはまる語を次から選び、記号で答えなさい。
ア、複合的 イ、流動的 ウ、本格的 エ、記録的
オ、具体的 カ、総合的

問二 — ①「犠牲者を守り切れないのはなぜでしょうか」とありますが、その理由を文中の言葉を使って二点挙げなさい。

問三 — ②「自然は、いわば神のような存在で」とありますが、ここでは自然のどのような性質を表現していますか。解答欄に合うように書きなさい。

問四 — ③「にあてはまる、「天災」と対になる言葉を漢字で書きなさい。

問五 — ④「相当」の意味として最も適切なものを次から選びなさい。
ア、多くの割合を占めている
イ、希望したとおりである
ウ、ふつうの程度をこえている
エ、つりあいがとれている

問六 — ⑤「にあてはまることわざを次から選びなさい。
ア、二度あることは三度ある
イ、喉元（のどもと）過ぎれば熱さ忘れる
ウ、捨てる神あれば拾う神あり
エ、石橋をたたいて渡る

問七 — ⑥「多層（たそう）群落（くもつ）の森をつくる」について、次の問いに答えなさい。
1、文中では具体的に何をするか。とどこに書いていますか。十五字以内で書きなさい。
2、それはどのような災害の対策として有効なのですか。漢字二字で答えなさい。

問八 — ⑦「ハード面での対策」の長所と短所をそれぞれ十字以内で二つずつ書きなさい。

問九 — ⑧「人間の干渉に敏感なところ」とはどのような場所ですか。最も適切なものを次から選びなさい。

ア、人間の生活によって様子が変わってしまいやすい場所
イ、人間が守っていかなければなくなってしまう場所
ウ、人間の影響を受けて危険な地域になる可能性のある場所
エ、人間が暮らすために邪魔で消さなければならぬ場所

問十 — ⑨とありますが、ではなぜ照葉樹ならよいのですか。その理由となる照葉樹の性質を二点答えなさい。

問十一 — ⑩「柔よく剛を制す」とありますが、この文中で「柔」と「剛」はそれぞれ何を指していますか。文中から抜き出しなさい。

問十二 — 次の文について、本文の内容にあっているものには○、あっていないものには×を書きなさい。

ア、マスメディアは、予測可能な自然現象に対する官公庁の対応について、常に厳しい批判の目を持っている
イ、日本人は、何千年も前の昔から、土地本来の森をこわさないように大切に守って暮らしてきた
ウ、自然災害による犠牲者の数は、科学や技術が飛躍的に進歩しても、近年増加する一方である
エ、二宮尊徳は、苦学したからこそ先見の明を持ち、酒匂川の洪水に對して早めに植樹の対応ができた
オ、災害対策としての森づくりは、筆者が主張しはじめたことではなく、古くから日本にある考え方である

問十三 — A・Bについて、次の問いに答えなさい。
1、A「密植」の「密」と最も近い意味で「密」を使っている熟語を次から選びなさい。

ア、厳密 イ、親密 ウ、密集 エ、密告
ア、観察 イ、人家 ウ、直接 エ、読書

2、B「護岸」と同じ構成の熟語を次から選びなさい。

二 次 の 文 章 を 読 ん で 問 い に 答 え な さ い。

金子みすずは、大正から昭和にかけて作品を発表した童謡詩人です。「わたしと小鳥とすず」とのほか、「星とたんぽぽ」「ふしぎ」など、その作品の一部は小学校の国語の教科書にも掲載されています。

「わたしと小鳥とすずと」

わたしが両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう、
たくさんうたは知らないよ。

①すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがつて、みんないい。

子ども時代に優れた詩をアンソウするのはとても大事なことです。小さい頃に覚えたフレーズは一生忘れません。深い意味を説明できなくても、頭の中にあること覚えておけば、繰り返し取り出して思い出して味わえます。十年後か二十年後か、それまで気づかなかった感動を、ふつと覚えることもあるかもしれません。彼女の詩は、②長い年月に渡って一人の人間の心に寄り添い続けてくれる力を、持っていると思います。

この詩では、「小鳥」と「すず」と「わたし」の組み合わせが絶妙です。世の中にあるさまざまなものから、「小鳥」と「すず」と「わたし」を選び出している。その選択に愛らしさを感じます。「小鳥」と「すず」がコロコロたわむれているような、笑い合っているような、そんなイメージが湧いてきます。

すべての上質な文学の条件として、大人と子どもの区別なく誰もが感動できることがあげられると思います。この童謡集を読み返していくと、一種③原始的な、不思議な気持ちになります。人類が誕生してまだ間もない時、目に見えない偉大な何ものかに向かって祈ったような、私たちの遠い記憶を甦らせてくれるのです。

どの詩にもどこか寂しさや切なさがあります。しかもそれは④一人の感情を越えています。人間という存在が大地に跪く時、大地から響いてくる寂しさ、切なさなのです。高い場所からではなく、地べたに這いつくばって世の中を見ている詩ばかりです。土や草をモチーフにした詩が多く、また海を歌うにしても海の底を歌っています。こうした作者の⑤姿勢の低さが、大勢の人の心を打つ要因ではないでしょうか。

「つもった雪」

上の雪

さむかるな。

つめたい月がさしていて。

下の雪

重かるな。

何百人ものせていて。

中の雪

さみしかるな。

空も地面もみえないで。

上と下と中の雪を、それぞれを見分けています。上の雪も、下の雪も、中の雪も、いろいろな我慢をして苦しさを耐えている。目のつけどころがユニークです。姿勢が低いからこそ⑥雪の声がよく聞こえるのです。

「星とたんぽぽ」という詩の中に、

⑦見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

という有名な一節があります。これこそが金子みすずの詩を貫くテーマでしょう。

「はちと神さま」

はちはお花のなかに、
お花はお庭のなかに、
お庭は土べいのなかに、
土べいは町のなかに、
町は日本のなかに、
日本は世界のなかに、
世界は神さまのなかに。

⑧そうして、そうして、神さまは、
小ちやなはちのなかに。

金子みすずの目には、世界はこのように映っているのです。神さまは空の高いところから私たちを見張っているのではなく、小さな蜂の中にいる、小さな小さな、みんなが見過してしまふところに神さまはいるという、彼女の⑨素朴な世界観が私はとても好きです。

金子みすずは、明治三十六（一九〇三）年に山口県の仙崎村（現長門市仙崎）という日本海に面した漁師町で生まれています。A、『大漁』などの海や魚にまつわる童謡を数多く残しています。

金子みすずが二歳の時にお父さんが亡くなり、お母さんは仙崎でたった一軒の本屋をはじめました。B、金子みすずも本が大好きになったと伝えられています。

C 下関で本屋を営んでいた親せきのおばさんが亡くなったために、おばさんのご主人とお母さんが再婚して、やがてみすずも本屋の店番をするようになりました。そこで童謡と出合います。詩が載っている雑誌にはすべて目を通し、特に西条八十の童謡に心を躍らせたそうです。

いつも本と言葉に囲まれて、その中で自分を表現する方法として童謡に出合ったのでしょう。そして童謡を雑誌に投稿し、その作品が西条八十に絶賛され、世の中に知られるようになります。

ところが、結婚してから、不幸がはじまります。ご主人が詩の投稿を禁じたのです。これは⑩生きる意味を奪われるようなものです。ついに離婚となりますが、娘の親権を要求するご主人に抵抗する意志をあらわすため、昭和五（一九三〇）年二十六歳の時に自ら命を絶ってしまうのです。時代が違えば、おそらく死ぬ必要はなかったでしょう。いまの時代だったらもっと大いばりでどんどん自分を表現できるし、仕事をしながら子どもを育てることだってできたでしょう。

憧れていた西条八十に認められた時点で彼女の創作の未来は輝かしいものでした。それを周囲の環境がつぶしてしまったということが、残念でありません。

その後、児童文学者の矢崎節夫さんが、金子みすずの童謡を残すことに尽力されました。大学時代に出合った『大漁』という童謡に心を打たれた矢崎さんが、そのほかの作品を探し続けたそうです。金子みすずの弟さんから三冊の手帳を預かることができ、その中に童謡が五十二編残っていたということです。

⑪泉が湧き出るように、詩が出てきたのでしょう。

次から次から、いろいろなものが見え、いろいろな音が聞こえ、それらがすべて童謡になってあふれでて、手帳に書き残しておいた。それをきくと⑫後世に残してくれる人がいた。金子みすずの人生は決して幸福とはいえなかったかもしれませんが、彼女の詩は救い出されたのです。私たち読者にとって何より⑬それが幸せなことです。

（小川洋子『心と響き合う読書案内』（PHP研究所）より）

問一 ―①とありますが、この詩にある「ずず」「小鳥」「わたし」のいいところを、それぞれ五字以上十字以内で一つずつ書きなさい。

問二 ―②とはどういうことですか。最も適切なものを次から選びなさい。

- ア、いつも心の中であって忘れることはない
- イ、つねに温かい気持ちを与えてくれる
- ウ、年齢と共に心の中で成長し進化していく
- エ、ずっと変わることなく真実を語りかける
- オ、人生のいろいろな場面で支えとなる

問三 ―③とはどんな気持ちですか。最も適切なものを次から選びなさい。

- ア、科学を知らない古代の人々が、自然をおそれうやまう気持ち
- イ、なにかが誕生した時に感じる、心がゆさぶられる気持ち
- ウ、人間が本来もっている、つつしみ深いかしこまった気持ち
- エ、最初になにかを発見したときの、新鮮なおどろきの気持ち
- オ、昔も今も同じように、人間が幸福をひたすら願う気持ち

問四 ―④とはどういうことですか。最も適切なものを次から選びなさい。

- ア、だれか特定の人の感情に限らず、人間に共通した感情であること
- イ、長い歴史を経て、人類が築いてきた感情であること
- ウ、一人だけではたえられないほど、大きく深い感情であること
- エ、人間という存在を超えた、なにかが持っている感情であること
- オ、大勢の人が集まって、ようやく感じられる感情であること

問五 ―⑤とはどういうことですか。最も適切なものを次から選びなさい。

- ア、すべてのものごとを思いやりの目でみる
- イ、いつも庶民的な発想を失わずにいる
- ウ、孤独を感じて自分の身をかがめる
- エ、どんなことに對しても謙虚な態度をもつ
- オ、足元に注目して小さなものを見のがさない

問六 ―⑥とはどういうことですか。最も適切なものを次から選びなさい。

- ア、雪の気持ちを正しく感じることでできる直観力がある
- イ、雪の降る音に耳をすませて聞きもらさない集中力がある
- ウ、雪の姿を借りて自分の気持ちを詩にする表現力がある
- エ、雪の様子から悲しみをわかってあげる理解力がある
- オ、雪のさまざまなあり方に思いをはせる想像力がある

問七 ―⑦「見えぬけれどもあるんだよ」とありますが、「つもった雪」の詩で、「見えぬけれどもある」のは何ですか。

問八 ―⑧に表現されている気持ちとして、最も適切なものを次から選びなさい。

- ア、自分だけが神さまの居場所を見つけられたというほこらしさ
- イ、どんなに小さなものでも神さまは大切にしてくれるというよろこび
- ウ、神さまが世界中にいつでも助けてくれるというやすらぎ
- エ、世界を包む神さまが実は小さいものに過ぎないというおどろき

問九 ―⑨「素朴な世界観」とありますが、ここでの「素朴」の意味を次から選びなさい。

- ア、昔からある、親しみやすいさま
- イ、新しく、意外性のあるさま
- ウ、飾り気がなく、自然体であるさま
- エ、単純で、だれにでもわかるさま

問十 A C にあてはまることばを次から選びなさい。同じ語を二度使つてはいけません。

- ア、さらに
- イ、そのおかげで
- ウ、ですから
- エ、けれども

問十一 ―⑩「生きる意味」とありますが、金子みすずにとつて「生きる」とはどういうことだったといえますか。文中から七字で抜き出しなさい。

問十二 ―⑪には筆者のどのような気持ちが表現されていますか。あてはまらないものを次から一つ選びなさい。

- ア、みすずの文学的な生き方をうらやましく思う気持ち
- イ、尽きることのないみすずの才能を心から惜しむ気持ち
- ウ、美しい詩をたくさん生み出すみすずの力に感嘆する気持ち
- エ、エネルギーを詩に注ぎ込むみすずの姿をいとおしむ気持ち
- オ、みすずの生まれながらの詩人としてのあり方に敬意を持つ気持ち

問十三 ―⑫「それ」とは何か、わかりやすく説明しなさい。

問十四 ―a c について、次の問いに答えなさい。

1、a 「アンショウ」の i アン ii ショウと同じ漢字をふくむ熟語を次から選びなさい。

- i ア、アンシンして眠れる
- イ、アンザンが得意です
- ウ、アンナイしてください
- エ、アンガイ元気だね
- ii ア、ショウメイできない
- イ、インショウに残る
- ウ、ショウカに悪い食べ物
- エ、ガツショウ部に入る
- 2、b 「絶妙」の意味として最も適切なものを次から選びなさい。
- ア、とてもすばらしい
- イ、とてもめずらしい
- ウ、とてもおもしろい
- エ、とてもふしぎだ
- 3、c 「後世」の読みをひらがなで書きなさい。

三 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1、チヨメイな作家
- 2、ハイユウをめざす
- 3、名画をモシヤする
- 4、みんなでダンショウする
- 5、宿題はもうスんだ

